

第 1 編

基 本 方 針

1	第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン	5
(1)	第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン <ビジョン編>	5
(2)	第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン <戦略編>	5
2	第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン・アクションプラン2023	6
3	札幌市多文化共生・国際交流基本方針	7
(1)	策定の目的／目指す姿	7
(2)	目指す姿の実現に向けた5つの目標	8

1 第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン

(1) 第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン <ビジョン編>

札幌市は、2022年（令和4年）に市制施行100周年を迎えた。近い将来、人口の減少局面を迎え、人口構造に変化が生じることが予想されている中、魅力的なこのまちを次の世代に引き継いでいくために、持続可能なまちづくりを進めていくとともに、都市としての価値を創造し、高めていくことが必要である。市民、企業、行政などの多様な主体が札幌市の目指すべきまちの姿などを共有し、次の新たな100年となる今後10年のまちづくりの基本的な指針として、2022年（令和4年）に「第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン」（以下「第2次ビジョン」という。）を策定した。

「第2次ビジョン」の「ビジョン編」では、札幌市の魅力・特徴、第1次戦略ビジョンに基づくまちづくりの取組結果などを基に、札幌市の現在と将来に関する考察を行うとともに、この考察を踏まえ、札幌市の将来のまちの姿である「目指すべき都市像」やこの都市像の実現に向けた「まちづくりの基本目標」（政策の基本的な方向性）を定めた。

目指すべき都市像とまちづくりの重要概念							
<p>第2章「札幌市の現在と将来に関する考察」 札幌市の歴史 札幌市の魅力・特徴 第1次戦略ビジョンに基づくまちづくりの取組結果 昨今の社会経済情勢 SDGsの視点から見た札幌市</p>							
<p><札幌市の現在と将来に関する考察のまとめ> 人口減少の緩和を進めることはもとより、人口構造を始めとする様々な変化に大きな影響を受けず、その変化を積極的に生かし持続的に成長していくことが必要</p>							
<p>目指すべき都市像</p> <p>「ひと」「ゆき」「みどり」の織りなす輝きが、豊かな暮らしと 新たな価値を創る、持続可能な世界都市・さっぽろ</p>							
<p>まちづくりの重要概念</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>ユニバーサル(共生)</th> <th>ウェルネス(健康)</th> <th>スマート(快適・先端)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>誰もが互いにその個性や能力を認め合い、多様性が強みとなる社会の実現</td> <td>誰もが生涯健康で、学び、自分らしく活躍できる社会の実現</td> <td>誰もが先端技術などにより快適に暮らし、新たな価値の創出に挑戦できる社会の実現</td> </tr> </tbody> </table>		ユニバーサル(共生)	ウェルネス(健康)	スマート(快適・先端)	誰もが互いにその個性や能力を認め合い、多様性が強みとなる社会の実現	誰もが生涯健康で、学び、自分らしく活躍できる社会の実現	誰もが先端技術などにより快適に暮らし、新たな価値の創出に挑戦できる社会の実現
ユニバーサル(共生)	ウェルネス(健康)	スマート(快適・先端)					
誰もが互いにその個性や能力を認め合い、多様性が強みとなる社会の実現	誰もが生涯健康で、学び、自分らしく活躍できる社会の実現	誰もが先端技術などにより快適に暮らし、新たな価値の創出に挑戦できる社会の実現					

○まちづくりの基本目標
基本目標⑥互いに認め合い、支え合うまち
 <目指す姿>
 1) 年齢・性別・障がいの有無・国籍・民族・宗教・文化などの違いを互いに認め合い、尊重し合う、平和で包摂的な社会となっています。
 2) 世代や国籍を超えた交流や趣味を通じた交流などにより、市民のつながりが深まり、相互の信頼や協力が得られる社会が形成されています。
 <取り組むこと>
市民・企業など
 ・年齢・性別・障がいの有無・国籍・民族・宗教・文化などの違いに対する理解
 ・交流活動などへの積極的な参加
行政
 ・心のバリアフリーの促進
 ・多世代交流や高齢者の交流の促進

（『第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン<ビジョン編>』より出展・抜粋）

(2) 第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン <戦略編>

「第2次ビジョン」の「戦略編」では、「ユニバーサル（共生）」、「ウェルネス（健康）」「スマート（快適・先端）」を3つの「まちづくりの重要概念」として捉え、分野をまたがる課題を整理し、分野横断的に取り組む施策を示している。

【分野横断的に取り組む施策（プロジェクト）】

<ユニバーサル（共生）プロジェクト>

障壁（バリア）を取り除くとともに、全ての人の利便性の向上に向けた取組の推進

<ウェルネス（健康）プロジェクト>

生涯を通じた健康づくりや社会参加の場の充実に向けた取組の推進

<スマート（快適・先端）プロジェクト1>

スマートシティの推進と人材育成・産業競争力の強化

<スマート（快適・先端）プロジェクト2>

ゼロカーボンの推進と冬季の生活を維持し、雪を積極的に利活用する取組の推進

<人口減少緩和プロジェクト>

結婚や出産を望む市民の希望を実現するとともに、住み続けたい取組の推進

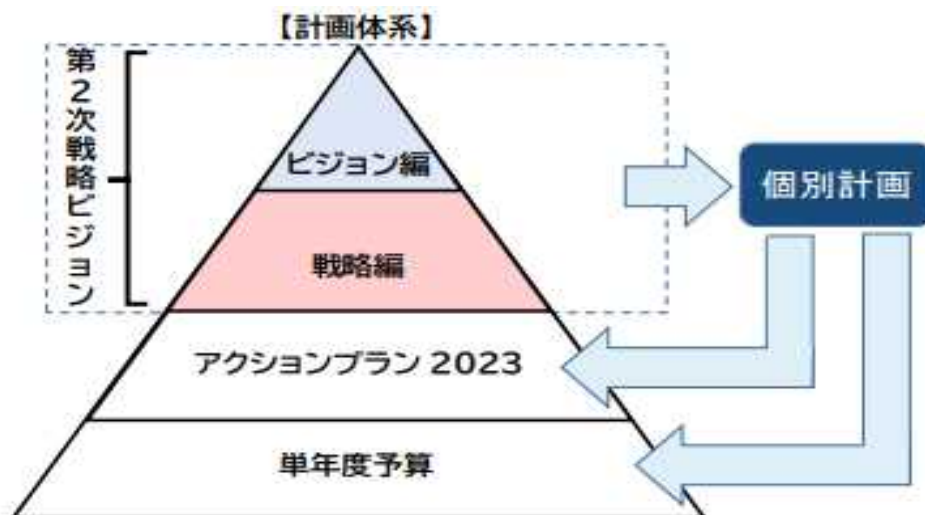
（『第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン<戦略編>』より抜粋）

2 第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン・アクションプラン 2023

○計画策定の趣旨、計画の位置づけ、計画期間

「第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン・アクションプラン 2023」は、前計画の「札幌市まちづくり戦略ビジョン・アクションプラン 2019」に引き続き、上位計画「札幌市まちづくり戦略ビジョン」を実現するための中期実施計画として、第2次戦略ビジョンとともに総合計画に位置付けられ、札幌市の行財政運営や予算編成の指針となるものである。

計画期間は、2023年度（令和5年度）から2027年度（令和9年度）までの5年間。



<計画体系別事業>（国際関連部分）

基本目標 3 一人一人の良さや可能性を大切にする教育を通して、子どもが健やかに育つまち
 ・帰国・外国人児童生徒教育支援事業（ユニバーサル/人口減少緩和プロジェクト）

基本目標 6 互いに認め合い、支え合うまち
 ・多文化共生推進事業（ユニバーサル）
 ・世界冬の都市市長会会議開催事業（スマート2）
 ・ユニバーサル推進事業（ユニバーサル）

基本目標 10 強みを生かした産業が北海道の経済をけん引しているまち
 ・食の輸出拡大支援事業（人口減少緩和プロジェクト）
 ・食の輸出力強化支援事業（人口減少緩和プロジェクト）
 ・（仮称）新MICE施設整備事業（人口減少緩和プロジェクト）
 ・付加価値の高い観光コンテンツ創出事業（人口減少緩和プロジェクト）
 ・アドベンチャーツーリズム推進事業（人口減少緩和プロジェクト）
 ・観光客受入環境整備事業（ユニバーサル/人口減少緩和プロジェクト）
 ・観光客二次交通対策推進事業（人口減少緩和プロジェクト）

基本目標 11 多様な主体と高い生産性、チャレンジできる文化が経済成長を支えるまち
 ・海外展開支援事業（人口減少緩和プロジェクト）
 ・海外投資誘致事業（スマート1/人口減少緩和プロジェクト）
 ・国際ビジネス人材支援事業（ユニバーサル/スマート1/人口減少緩和プロジェクト）

基本目標 14 四季を通じて誰もがスポーツを楽しむことができるまち
 ・国際スポーツ大会等誘致促進事業（ユニバーサル/ウェルネス/人口減少緩和プロジェクト）

基本目標 15 文化芸術が心の豊かさや創造性を育み、世界とつながるまち
 ・パシフィック・ミュージック・フェスティバル（PMF）事業（ウェルネス/人口緩和減少プロジェクト）
 ・国際芸術祭事業（ウェルネス/スマート2/人口減少緩和プロジェクト）

（『第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン・アクションプラン 2023』より抜粋）

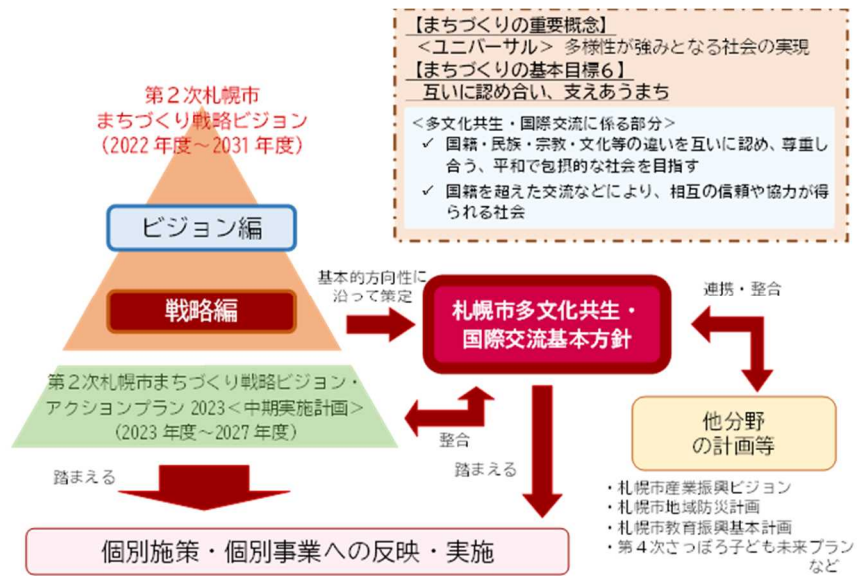
3 札幌市多文化共生・国際交流基本方針 ～世界中の多様な人々とともに生きる都市さっぽろ～

○策定の目的

我が国では、少子高齢化や生産年齢人口の減少、それに伴う人手不足などの課題に対応するため、新たな在留資格「特定技能」を創設し、外国人材の適正な受け入れ・共生のための取組を推進している。

札幌市においても、近年外国人市民数は一貫して増加傾向にあり、今後も国の労働政策やグリーン・トランスフォーメーション（GX）等の投資活性化などを背景に更なる増加が見込まれることから、外国人市民も不便や不安を感じることなく、日本人市民と同じように安心して暮らすことのできる環境をつくっていくことが重要である。

そこで、行政、企業、市民活動団体などさまざまな主体が「多文化共生社会」を実現していくにあたり、目指す姿及び実現に向けた取組の方向性を共有し、今後 10 年間、ともに行動していくための基本的な考え方を示すものとして、「札幌市多文化共生・国際交流基本方針」（2023 年度（令和 5 年度）～2032 年度（令和 14 年度））を策定した。



○目指す姿

世界中の多様な人々とともに生きる都市さっぽろ

基本方針においては、札幌市が世界中の様々な国や地域の人々を惹きつけ、国籍・民族・言語・文化的背景などが異なる人々が集うとともに、多様な価値観が共存することによって今までになかった新たな価値が生み出されている都市を目指すこととした。そして、それぞれの個人が持つ多様な価値観が強みとなり、また個人の能力が十分に発揮され、日本人、外国人が共に札幌市民として活力にあふれ、充実した暮らしを送ることが出来る都市を目指していく。

○目指す姿の実現に向けた5つの目標

目標1 だれもがつながり伝えあえるまち <コミュニケーション支援>

ことばのサポートなどを通じて、外国人市民が抱える日常生活における不便や不安の解消に取り組む。

(施策の方向性)

- ① 相談体制の整備、行政・生活情報の多言語化
- ② 日本語教育の推進

目標2 みんなが安心してらせるまち <生活支援>

医療、子育て、福祉、災害など、特に日常生活に密接に関わる分野において「生活支援」の取組を推進。

(施策の方向性)

- ① 多方面の生活支援
- ② 教育機会の確保
- ③ 災害時の支援体制の整備

目標3 お互いをみとめあい、みんなが支えあうまち <意識啓発・社会参画>

「多文化共生意識の啓発」を図っていくことが必要である。「外国人市民の社会参画」を促進し、多様な価値観が活かされるまちを目指す。

(施策の方向性)

- ① 多文化共生の意識啓発・醸成
- ② 外国人市民の社会参画促進

目標4 世界とともに生きるまち <国際交流・国際協力>

交流を通じて、友好・親善関係を深めていく。地球規模で対応が求められる課題に対する協力関係を築いていく。

(施策の方向性)

- ① 姉妹・友好都市をはじめとする国際交流の推進
- ② 世界冬の都市市長会の活用
- ③ 国際協力への理解促進

目標5 みんながともに歩むまち <推進体制の整備>

市役所の組織横断的な体制により対応していく。札幌国際プラザ、市民活動団体、行政機関、企業、教育機関など様々な主体と協働。

(施策の方向性)

- ① 市役所の組織横断的な協働体制の構築
- ② 札幌国際プラザと一体となった施策推進体制の構築
- ③ 市民活動団体等との連携
- ④ 行政・関係機関、企業、大学等との連携